

平成29年度京都広報賞受賞作品の概要

広報紙・市の部

知事賞

京丹後市 広報京丹後 12月号



しっかり取材ができていて、市民の息づかいが感じ取れる。街の中に飛び込んだかのようなのである。同時に住民のシビックプライド醸成されるのではないだろうか。エディトリアル完成度が高く、1冊通して読み応えがあり、素晴らしい仕上がりである。

会長賞

長岡京市 広報長岡京 4月1日号



時世にマッチした企画テーマで素晴らしいチャレンジである。テーマにおいて重要な”街の空気感”が、うまく表現できていて、読む人へのメッセージが高いレベルで実現できている。今後はコンテンツ（事業、施策）を磨き、それ自身がシティコンセプトを体現するよう期待する。



大山崎町 広報おおやまざき 7月号



紙面内において「伝えよう!」とする意思を感じる。単に事業名を羅列することなく呼びかけが出来ていたり、読者との距離を近づけるための優しいトーン&マナーの工夫などが感じられる。まだまだ進化の余地もあるので、さらなる成長を期待する。

写真・1枚写真の部

知事賞

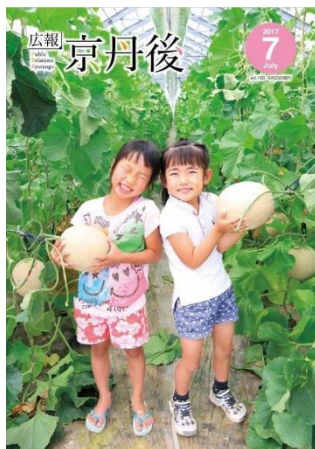
与謝野町 広報よさの 6月9日号表紙
(和田 直樹さん)



完璧なカメラワークで、光回りや青みがかった色のトーン、意図的な周辺光量落ちなど、神楽舞の荘重さが深々と表現されている。舞い散る紙吹雪の中、天狗が竹笛を見つめている一瞬が、まるで永遠を感じさせるかのように画面のなかに閉じこめられている。決して「記録」だけにとどまらない、「記憶」に残る見事な写真である。

会長賞

京丹後市 広報京丹後 7月号表紙
(北尻 光さん)



バランスの良い安定したカメラワーク、広角レンズを生かし切った焦点距離の選択、被写体の表情を引き出すための現場での工夫など、広報紙で子供を表紙にする際のお手本のような写真に仕上がっている。地域の名産品と観光農園の楽しさの両方がワンカットで表現されており、ロゴの色合いとのバランスや、写真のコントラストや彩度、全てにおいて上品に仕上がった表紙である。

写真・組み写真の部

京丹後市 広報京丹後 11月号22~23ページ
(北尻 光さん)

知事賞



「宿制」の魅力を伝えるべく、取材撮影することにより、奥深い物語性を感じさせる組写真に仕上がっている。一枚一枚の写真がそれぞれ丁寧に撮影されており、デザイン面でも厳かにまとまっている。この紙面を見て、大変ではあるが大切なこの「宿制」を守っていききたい、と思った市民が必ず存在することと思う。



伝統的な秋祭りを準備段階から密着して取材撮影することにより、奥深い物語性を感じさせる組写真に仕上がっている。一枚一枚の写真がそれぞれ丁寧に撮影されており、デザイン面でも厳かにまとまっている。この紙面を見て、大変ではあるが大切なこの「宿制」を守っていききたい、と思った市民が必ず存在することと思う。

会長賞

京都市 きょうと市民しんぶん 12月1日号16ページ
(皆越 哲也さん)



映画のコマ割のような構成、シネマライクなトーンのもと、ストーリー展開が楽しめる組写真になっている。読者の想像力を広げさせるための、各写真の構図の工夫、被写体の表情作りも秀逸で、作る側が楽しんで工夫しながら制作していることが、見る側にも伝わってくるものになっている。

映像の部

知事賞

城陽市 ゴリゴリ戦隊五里ンジャー ゴリゴリ戦隊プロジェクト始動編



幅広い年代層に受け入れられる戦隊ヒーローを起用し、数多くのロケーション、市民を巻き込んで制作している点が素晴らしい。戦隊ヒーローも市民団体考案のキャラクターであり、まさにALL城陽の作品となっている。制作者の「何としても市民に興味を持ってもらう映像を！！」という強い意志を感じる。また、市の特産品を盛り込むことで色モノ映像ではなく、PR映像として成立している。耳なじみの良い楽曲を使用したことで子どもにも分かりやすい内容となっている。チャレンジの中にも行政制作の映像であることは忘れずバランスの良い作品である。

会長賞

長岡京市 45歳の誕生日おめでとう！

～かしこ暮らしっく長岡京ケーキ メーキングムービー～



「かしこ暮らしっく」。長岡京市の目指すニュアンスと映像のイメージがリンクし、市の周年を誕生日に置き換えることで市民にとって親近感が湧く作品となっている。ケーキのデザインが市のシティプロモーションロゴになっていることでロゴの認知にもつながり、映像がきっかけとなり我が町に愛着を持つ大きな可能性を秘めている。「行政広報のネタはオーソドックスで面白くしようがない」。そう悩む市町村広報担当者にとって模範的な作品である。

府民賞

伊根町 広報伊根 9月号

※府民から見た広報紙の読みやすさ、見やすさをWEB投票によって決定。



- ・ カラー写真の多用とやさしい文章なのが読みやすい。
- ・ 写真と文字のバランスも良い。
- ・ 伊根の魅力や人情が伝わるように読みやすい。
- ・ 地域全体の情報から市民の生活に至るまでいろいろ伝えていることに感心した。